

第5期 多摩区地域福祉計画(平成30～32年度) 中間評価(平成30年度) (案)

重点的な取組	取組状況	取組状況に対する評価	事業の達成度	施策への貢献度
誰もが参加できる健康・いきがいつくり ※基本目標1 「多様な主体が参加する地域づくり」 基本方針(1) 「誰もが参加できる健康・いきがいつくり」	・多摩区みんなの公園体操の実施(35会場にて実施、うち3会場は30年度新規立上げ) ・多摩区いきいき体操の実施(25会場にて実施) ・バサージュ・たまの開催(11回開催) ・多摩区スポーツフェスタの開催(3,062名参加)	「いきいき体操」「公園体操」は、自宅に近い公園等の様々な会場で、区民が健康づくり・介護予防活動に参加しやすい場となっている。また、各会場ボランティアが、地域の健康づくりへの担い手になっている。 「バサージュ・たま」は、区役所1階で定期的に開催することで、多くの区民が障害に対する理解と関心を深める機会、交流の場となっており、当事者も意欲と活力をもって参加している。 「多摩区スポーツフェスタ」は、誰もが参加できるスポーツ体験事業として毎年好評を得ている。障害者スポーツ、ニュースポーツ体験等も実施しており、地域スポーツ、パラスポーツへの意識向上に努めていく。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
ボランティア・NPO活動の支援 ※基本目標2 「多世代交流でつながる地域づくり」 基本方針(1) 「ボランティア・NPOの活動支援」	・多摩区こどもの外遊び事業の実施 外遊び交流委員会による外遊びイベントの開催(3回)。地域外遊び活動支援の実施(物品貸出、広報支援、人材派遣)。 ・磨けば光る多摩事業の実施 地域課題の解決や賑わいのある暮らしの実現を目指す市民活動について、地域の団体と協働で取り組んだ。30年度は提案があった5事業の中から3事業を選定し実施。 ・区民との協働によるまちづくり活動実践事業の実施 まちづくり活動団体の活動発表の場、学びの場、交流の場等を提供した。まちの課題解決に向けて、出張たまサロン(年2回)、商店街を通じたエコ啓発活動(通年)等を実施した。	「多摩区こどもの外遊び事業」では、事業を通じて、区内の豊かな自然環境を活かした「外遊び」を推進し、地域でのつながりづくりを進めることができた。 「磨けば光る多摩事業」では、多数の区民の参加を得て事業実施できた。また、過去の実施団体の活動のうち、本事業終了後、区に定着している例もあり、効果的な事業実施が行われている。 「区民との協働によるまちづくり活動実践事業」では、まちづくり協議会と連携し、活動団体同士や団体と区民の交流の場を積極的に設けることで、まちづくり活動への中間的支援を拡充できた。エコ啓発活動では区内4商店街の後方支援を行うことで、まちの課題解決に向けた活動を実践できた。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
地域活動・交流の場づくり ※基本目標2 「多世代交流でつながる地域づくり」 基本方針(2) 「地域活動・交流の場づくり」	・多摩区地域包括ケアシステム推進事業の実施 ・地域子育てサロン等、子育て世帯への交流の場の提供 「ままだsサロン」、「ままと遊ぶういぱもね」事業等 ・子育てに不安を抱えている親子、地域活動に参加しにくい外国籍の親子等へ相談、交流の場を提供 「だんだんの会」、「外国人の子育て広場」事業等	「地域包括ケアシステム推進事業」では、住民が行ってきた地域活動への支援、新規活動への立ち上げ支援等の取組を、地域ごとの特性に合わせながら実施した。生田、中野島、登戸地区で、フォーラム等のイベントを実施した。お互いの活動紹介、情報交換、交流の場が、地域の中での新たなつながりを生み、居場所づくり等、新たに地域活動を始めるきっかけになったという例もあった。 子育て世帯の交流の場を、身近な地域の中で、様々な担い手により、数多く作っていくことが、地域で子育て世帯を見守っていく環境づくりにつながっている。転入者や育児不安がある子育て世帯には少人数の場を、また外国人の親子に通年で定期的な交流の場を提供する等、対象の親子が安心して過ごせる交流の場づくりをしている。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
区民・団体・行政との連携 ※基本目標3 「見守り・支え合いのネットワークづくり」 基本方針(1) 「区民・団体・行政との連携」	・多摩区こども総合支援連携事業の実施 こども総合支援連携会議および地区会議の開催、多摩区こども・子育て基本方針の改定 ・多摩区要保護児童対策地域協議会実務者会議 実務者会議報告や大学教授による講義、スーパーバイズの実施 ・多摩区精神保健福祉連絡会議 全体会議および作業部会の開催 精神保健福祉に関する講演会のチラシを学校や医療・福祉の関係機関へ配布	「多摩区こども総合支援連携事業」では、基本方針の改定作業や、子育てに関わる機関、団体が集まって定期的に会議を行うことで、子育て支援者間のネットワーク形成、地域での子育てについて連携して取り組む意識づくりに繋がっている。 「多摩区要保護児童対策地域協議会実務者会議」、「多摩区精神保健福祉連絡会議」も、様々な参加者が集まることで顔の見える関係づくりを進めるとともに、講演会や具体的な課題を参加者どうして話し合う機会を提供することで、よりよい連携・支援のためのネットワークとなっている。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している
支援につながるしくみづくり ※基本目標3 「見守り・支え合いのネットワークづくり」 基本方針(2) 「支援につながるしくみづくり」	・川崎市地域見守りネットワーク事業(通称件数:7件) ・災害時要保護者避難支援制度(新規登録者数26件) ・「多摩区こども相談窓口」の案内、周知 妊婦から18歳までのお子さんの相談窓口に関するチラシを作成、配布(9,000部)	「川崎市地域見守りネットワーク事業」や「災害時要保護者避難支援制度」は、全市的な制度であるが、民間業者や町内会・自治会、自主防災組織、民生委員児童委員等と連携し、地域全体での見守りのしくみとして機能している。 「多摩区こども相談窓口」のチラシを、幼稚園・保育園、小中学校、子育て関係機関、民生委員児童委員、その他福祉施設等に配布。30年度から、配布時期を6月の小学校訪問の時期に変更し、学校長に趣旨説明しながら配布することで、チラシの効果をより高めることができた。結果、チラシで相談窓口につながったケースもあり、支援につながるしくみとして有効に働いている。	3 目標をほぼ達成	A 貢献している

特筆すべき取組を含めた総評

・基本目標1「多様な主体が参加する地域づくり」では、誰もが地域活動に参加することができるとともに、支援を受ける側が時には支援をする側になるような地域づくりを目指して、様々な取組を行ってきた。活動に参加するだけでなく、人材育成事業を通して支援する側として地域活動に携わる機会を提供し、より多様な主体によって地域づくりを進めていく。

・基本目標2「多世代交流でつながる地域づくり」では、福祉分野に限らず「地域づくり」の観点から市民創発の取組を支援することで、様々な年齢層の住民が参加できる活動の場が増えている。地域で活動している団体間の交流、情報交換の場や、区民が地域の活動を知る機会が増え、結果、多世代につながる地域となっていくための取組を、住民とともに考えていく必要がある。

・基本目標3「見守り・支え合いのネットワークづくり」では、様々な分野の出席者による会議や連絡会を通じて、地域課題を共有し、多様な視点からの支援が速やかに提供できるように、連携、見守りのネットワークづくりを進めている。

・地域の様々なニーズに対応し地域特性を生かした取組を行うことで区独自の地域づくりを行い、多様な主体がつながり合う関係づくりを進めてきた。今後更なるつながりあり・支え合いが求められる中、地域の中でのみまもり・支え合いがより有機的に働こう地域づくりを進めるとともに、区役所内部の連携だけでなく関係各所・市民とより一層連携を深めていく必要がある。

【事業の達成度】 1 目標を大きく上回って達成 2 目標を上回って達成 3 目標をほぼ達成 4 目標を下回った 5 目標を大きく下回った

【施策への貢献度】 A 貢献している B やや貢献している C 貢献度の度合いが薄い